

(第13回) 重信川大規模氾濫に関する減災対策協議会 (第8回) 重信川流域治水協議会

- ・実施日：令和8年5月25日(月) 14:30～16:00
- ・場所：ホテルアイスル松山「芙蓉の間」
- ・出席者：**構成員**
松山市長（代理：防災危機管理部副部長、都市整備部長）、伊予市長、東温市長、松前町長、砥部町長、
国土地理院四国地方測量部長、気象庁松山地方気象台長、
愛媛県土木部河川課長、愛媛県中予地方局地域産業振興部長、
愛媛県中予地方局建設部長、
愛媛県警察本部警察部長（代理：災害対策官）、
中国四国農政局道前道後用水農業水利事業所長、
林野庁四国森林管理局愛媛森林管理署長（代理：地域林政調整官）、
森林研究・整備 機構森林整備センター松山水源林整備事務所長、
四国山地砂防事務所長（代理：重信川砂防出張所長）、
松山河川国道事務所長
- ・事務局：松山河川国道事務所

●開催状況



会議状況



加藤東温市長発言



古谷砥部町長発言

●共有・確認事項

- ・重要水防箇所・石手川洪水予報河川
- ・減災に向けた取り組みの紹介
- ・各機関からの話題提供
- ・流域治水に関する取り組み

●テレビ・新聞等への取材状況

- ・愛媛新聞社

●出席者発言要旨

【減災に係る各機関の取り組み状況について】

- ・過去の浸水被害を踏まえ、雨水管・ポンプ場等の整備を進めており、令和7年12月には、気候変動を考慮した松山市雨水管理総合計画を策定した。加えて、防災マップの更新・全戸配布や災害用トイレカーの配備、防災士育成の広域化により、ハード・ソフト両面から地域全体の防災力向上を図っている。
(松山市 防災危機管理副部長)
- ・出前講座により洪水浸水想定区域図を活用し、自宅の浸水深や避難所、避難行動の確認などを促し、住民の防災意識向上を図っている。加えて、ポンプ場の更新による排水機能の強化や施設の長寿命化、総合防災訓練・水防訓練の実施により、地域全体の防災力向上と適切な避難行動の実現を目指している。
(伊予市長)
- ・出水期に備え、水防工法訓練を実施するとともに、重信川における流木処理を想定したチェーンソー訓練を消防職員・消防団員向けに初めて実施した。実地訓練により安全な操作技術の向上と危険認識が深まり、河川維持管理と地域の防災対応力の強化につなげている。
(東温市長)
- ・松前町では、平成29年台風による被害を踏まえ、重信川の堤防漏水対策を推進するとともに、流域治水プロジェクトに基づき雨水排水機場や貯留施設を整備している。低地に位置する工業団地や宅地の浸水被害軽減を図り、安全・安心なまちづくりを進めている。
(松前町長)
- ・本町では、排水機場の整備を進める一方、完成までの対策として排水ポンプ車による排水活動により浸水被害の防止・軽減に努めている。近年の激甚化する豪雨に備え、関係機関との連携強化や水防訓練、広報活動を通じて地域一体となった防災力向上を図っている。
(砥部町長)

【出席者からの意見】

- ・激甚化する風水害に対応するため、図上型防災訓練や水防工法訓練の充実、タイムライン運用の高度化、防災気象情報への対応強化、被害認定調査研修の継続実施など具体的な施策への一層の支援を求めるとともに、河川事務所・气象台・県等との広域連携強化により、重信川流域全体での減災体制の強化を図る。
(松山市 防災危機管理副部長)
- ・自助意識の醸成を重視し、自主防災会と連携した地域防災力の向上や、ジュニア防災検定の実施により若年層からの意識啓発を推進している。あわせて、夜間避難訓練や企業との各種防災協定（物資輸送、道路復旧、車両提供、EV活用等）を進め、多様な災害に備えた実効性の高い対応体制の構築を図る。
(伊予市長)
- ・防災士フォローアップ研修への参加を通じて、人数確保に加え地域での実践力向上の重要性を認識している。今後は継続的な研修機会の充実を図るとともに、学んだ内容の周知・実践を進め、防災士が地域で主体的に活動できる体制構築を目指し、減災のさらなる推進に取り組む。
(東温市長)
- ・重信川に面し水害リスクが高い地域として、排水機場や貯留施設などのハード対策を進める一方、防災士育成や水防訓練、地域コミュニティの強化などソフト対策を重視している。あわせて、堤防整備や砂州対策の推進、広域避難を見据えた自治体間連携の強化を図る。
(松前町長)
- ・役場内での周知・理解なくして有事対応はできないとの認識のもと、全職員が何を見てどう行動するかを理解する体制づくりを進めています。あわせてタイムラインの定期確認を徹底し、実効性向上を図っています。また、広報誌やSNSの活用により町民への周知を強化しています。今後は、未更新であった地域防災計画の見直しを進め、変化する防災情報に対応した継続的な改善に取り組む。
(砥部町長)
- ・支障木をチェーンソーの訓練と称して消防署に活用いただき、維持管理にも資するウィンウィンの関係となっている。こうした場所は提供できるのでぜひ活用いただきたい。また、ハード整備には限界があり担い手や財源の課題もある一方、ソフト対策は工夫次第で効果を高められるので、各機関が連携しハードとソフトを一体的に進めることが重要なので協力願いたい。
(葩島事務所長)

【流域治水への取り組み状況について】

- ・近年の雨の降り方の集中化、激甚化や都市化の進展等に伴い、多発する浸水被害の対応を図るため、令和7年12月に松山市雨水管理総合計画を策定した。
- ・松山市雨水管理総合計画に基づくハード対策を着実に進めるとともに、住民参加による避難体制の強化や、防災意識の向上といったソフト対策を重層的に組み合わせながら、流域全体で取り組む治水を推進していく。
(松山市 都市整備部長)